

令和元年度

自己評価報告書

令和2年5月27日

学校法人昌賢学園 群馬社会福祉専門学校

目 次

1 建学の精神と教育理念	1	4-14 資格・免許の取得率	7
2 令和元年度の改善目標と評価	1	4-15 卒業生の社会的評価	7
3 評価項目別取組状況	2	基準5 学生支援	9
基準1 教育理念・目標・育成人材像	2	5-16 就職等進路	9
1-1 教育理念・目標・育成人材像	2	5-17 中途退学への対応	9
基準2 学校運営	3	5-18 学生相談	9
2-2 運営方針	3	5-19 学生生活	9
2-3 事業計画	3	5-20 保護者との連携	10
2-4 運営組織	3	5-21 卒業生・社会人	10
2-5 人事・給与制度	3	基準6 教育環境	12
2-6 意思決定システム	3	6-22 施設・設備等	12
2-7 情報システム	4	6-23 学外実習、インターンシップ等	12
基準3 教育活動	5	6-24 防災・安全管理	12
3-8 目標の設定	5	基準7 学生の募集と受入れ	14
3-9 教育方法・評価等	5	7-25 学生募集活動	14
3-10 成績評価・単位認定等	5	7-26 入学選考	14
3-11 資格・免許の取得の指導体制	5	7-27 学納金	14
3-12 教員・教員組織	6	基準8 財務	15
基準4 学修成果	7	8-28 財務基盤	15
4-13 就職率	7	8-29 予算・収支計画	15
		8-30 監査	15
		8-31 財務情報の公開	15

基準 9 法令等の遵守	17
9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	17
9-33 個人情報保護.....	17
9-34 学校評価.....	17
9-35 教育情報の公開.....	17
基準 10 社会貢献・地域貢献	19
10-36 社会貢献・地域貢献.....	19
10-37 ボランティア活動.....	19
4 令和元年度総括と令和2年度の改善目標	20
5 学校関係者評価委員会の意見	21

1 建学の精神と教育理念

建学の精神と教育理念

〔建学の精神〕我が学園は、「質実剛健・敬愛・至誠」の三則を庭訓とし、同じくこの慈教の根本思想の展開である「忠恕」を加えて四則とし、大本の「仁」、並びに展開した「仁義礼知信」等の五倫五徳を踏まえ、総合した仁の精神を建学の精神とし、人格教育を行う。
〔教育理念・育成人材像〕

1. 人間らしさ、豊かな人間性を育む：同情する心は「仁」の芽生えで、悪を恥じ憎しむ心は「義」の芽生えで、譲り合いの心は「礼」の芽生えである。善悪の判断をする心が「智」の芽生えであり、これこそ道徳に対する高き気品であり、これらの力を発揮することこそが生きた教育であり、その実践力を養う。
2. 洞察力、観察力を身に付ける：知識や技術を優先するのではなく、自分たちの日常生活を踏まえたものの見方を養う。即ち自分の立場をはっきりさせることであり、それは正しいものの見方をすることであり、正確に客観的に物事を捉える事を学ぶ。
3. 学問を修得する喜びを分かち合う：学問に対するあこがれ、知識に対する意欲・気力を養うこと。旺盛な探求心。創作の喜び、真澄の如き学問的良心を養うこと。「好きこそものの上手なれ」といわれるが、学校を、教育を、教師を、教材を、仕事を好きになり、工夫し努力することこそが本当の知識に対する意欲であり、その気力を養う。
4. 福祉従事者として基本的な生活習慣を身に付ける：即ちさまざまな出来事に対して善処する知見と工夫と生活態度を養う。福祉の心を養う基本的な日常生活を身につけること、即ち福祉の実践学を学ぶ。

2 令和元年度の改善目標と評価

令和元年度の改善目標と評価

〔改善目標〕3年間で3資格を取得する本校のシステムが、卒業生の生涯にわたる職業人生を安定化し、かつ福祉社会の充実に資することを広く高校現場など一般社会へ知らしめ、学生募集・学園運営と教育のさらなる充実を達成する。

〔背景〕2年制の福祉保育学科にて保育士・幼稚園教諭二種免許を取得し、修了後1年制の介護福祉専攻科にて介護福祉士を取得する。

本校ならではのこの教育システムが、幼児・高齢者がともに過ごす近未来の共生・複合施設で中心となる人材育成を可能にする。

しかしながら近年は、福祉保育学科を卒業後、専攻科へ進学せず就職する学生が半数以上を占めている。定年が65歳から70歳になろうかというこれからの社会を生き抜いてゆかなければならない学生たちである。本校が目指す3資格取得が、生涯にわたり職業人生を支えることを理解させる必要がある。

そこで令和元年度は、初めて福祉保育学科2年生全員で介護のほか療育施設を併設する医療先進施設を見学させていただいた。施設長から福祉・医療現場の未来像を伺い、実際に生活されている方や支援者と触れ合うことで、学生たちの福祉観をより豊かなものにできた。学生の多くが、同じ職場内でさまざまな専門職として活躍できることに大きな可能性と魅力を感じてくれた。実際に専攻科進学に切り替える学生も現れた。

〔評価〕先進施設の見学は、教育面での効果は明らかであったが、11月実施が就職決定時期と重なり、専攻科への進学をじっくり考える時間的、経済的な余裕がなかった。今後はより早い時期から取り組み、長期的・多面的な視野で進路を考える活動に深める必要がある。

最終更新日付

令和2年4月15日

記載責任者

鈴木 国泰

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目標・育成人材像

1-1 教育理念・目標・育成人材像

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
1-1-1 教育理念・目標・育成人材像は、定められているか	4 3 2 1
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4 3 2 1
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4 3 2 1
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4 3 2 1

評価と課題	今後の改善方策
<p>1. 教育理念等は、上記「建学の精神と教育理念」のとおり定める。学校案内で特色が理解されるよう、アドミッションポリシーの反映としての入試を中心に改定を重ね、「理事長挨拶」「教育理念」に明確化されている。校内に訪れた人にものみ発信されるものでなく、高校教諭を対象とした説明会、オープンキャンパス、入学者の保護者会など機会を十分に利用し発信している。また、理事長講話の中での「儒教哲学の研究」「威有一徳」のテキストとして学生や地域一般に広く教育されている。</p> <p>実習先からは、学生の行動力と真摯な態度に好感が寄せられている。本校の特色である、日々の美化活動とボランティア活動が理念実践の場となり教育効果を挙げている。</p> <p>2. 本校では、幼児と高齢者が共生する近未来の福祉施設（社会）を構想し、保育・幼稚園教諭・介護福祉士の3資格取得を目標としている。</p> <p>しかし現状では、共生複合施設はまだ一般的とは言えず、高校生・保護者・高等学校関係者へのさらなる啓蒙活動に取り組む必要がある。</p>	<p>1. 教育理念等は、ホームページ（以下 HP）・各種進路雑誌等のメディアによって広報されているが、どの程度高校生に認識されているか、アンケートなどで改善を図ることも必要であり、高校生のみならず一般の人々にも読んでもらい意見を聞くのも一考であろう。</p> <p>2. 保・幼・介護の3資格取得が、卒業後の職業人生を豊かにし、福祉現場での長期間の活躍を後押しする。本校教育システムの生涯にわたる優位性を、入学前の高校生・保護者・教諭・一般社会へと広く啓蒙してゆく。</p>

最終更新日付

令和2年4月15日

記載責任者

鈴木 国泰

基準 2 学校運営

2-2 運営方針

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	4	3	2	1

2-3 事業計画

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	3	2	1

2-4 運営組織

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	3	2	1
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	3	2	1

2-5 人事・給与制度

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	3	2	1
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	3	2	1
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	3	2	1

2-6 意思決定システム

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	3	2	1

2-7 情報システム

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4 3 2 1

評価と課題	今後の改善方策
<p>法人組織は理事長、理事会、評議員会の指導の下、法人本部、大学・短大、大学付属研究機関、大学事務部、専門学校、認定こども園の6部門から構成される。</p> <p>冒頭に掲げた建学の精神は、学校運営方針・事業計画・組織運営それぞれの部門教職員に浸透し、人格教育を通して社会へ貢献することに向かっている。人事・給与に関する制度も整備され、意思決定システムも組織図で明確になっている。</p> <p>1. 昨年度は、情報の電子化としてファイル共有・伝達事項をまとめた掲示板など、オンライン化が進んだ。教職員個々のオンラインのスキルの差は大きく、校内研修を通じて縮めてゆく。</p>	<p>1. オンライン授業のスキルについては、年間計画を作成し、定期的実施をする。</p>

最終更新日付	令和2年4月15日	記載責任者	鈴木 国泰
---------------	-----------	--------------	-------

基準 3 教育活動

3-8 目標の設定

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	3	2	1
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	3	2	1

3-9 教育方法・評価等

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	3	2	1
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	4	3	2	1
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	4	3	2	1
3-9-4 授業評価を実施しているか	4	3	2	1

3-10 成績評価・単位認定等

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	3	2	1
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	3	2	1

3-11 資格・免許の取得の指導体制

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	3	2	1
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4	3	2	1

3-12 教員・教員組織

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	4 3 2 1
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	4 3 2 1

評価と課題	今後の改善方策
<p>1. 教育課程は、理念を反映した3ポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）により、編成方針・実施方針、求める人物像、学ぶべき科目、求める到達能力レベル・人材像が示されている。すべての科目はシラバスに「授業ごとの目的・ねらい」として到達目標を明確にしている。</p> <p>2. 教育課程の編成は、目標とする国家資格過程を中心に、学外の高齢者・障害者・子ども分野それぞれの施設経営者、指導者など職業現場からの意見を聞き、専門科目と選択科目とが適切に編成されている。 授業は、国の要件を満たした教師陣が学生による授業評価を参考に、アクティブ・ラーニングの工夫やキャリア教育にも適切に取り組んでいる。</p> <p>3. 成績評価は筆記・作品・実技試験とも、A（80点以上）B（79～70）C（69～60）D（59以下）の4段階で判定し、Dを不合格とする。受験資格は実授業時間数の3分の2、実習時間数の5分の4以上の出席。学則・学生便覧・試験ごとの「実施要項」で、学生・教職員へ周知している。科目ごとには、シラバスで「単位認定の方法及び基準 授業態度 30% 試験 70%」と示している。試験は定期試験と科目独自の豆テストの2種。</p> <p>4. 保・幼・介護の国家資格分野であり、目標は明確である。介護福祉士国家試験対策では授業前と放課後も活用し、過去問題・模試・不得意領域対策を徹底して繰り返すことで好成績をキープできている。</p>	<p>3. 成績評価・修了認定として、ポートフォリオやルーブリックの活用が考えられる。委員会を設置し、常勤講師・非常勤講師ともにより明確な認定基準を設けることを検討していく。</p>

最終更新日付	令和2年5月15日	記載責任者	上田勝己
--------	-----------	-------	------

基準 4 学修成果

4-13 就職率

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1

4-14 資格・免許の取得率

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	3	2	1

4-15 卒業生の社会的評価

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	3	2	1

評価と課題	今後の改善方策
<p>1. 就職では、保育・福祉現場の人材不足がつづき、毎年、在学生の 300 倍以上の求人が寄せられ、希望者全員が内定している。 職に就くことよりも、職業人・社会人としての人間教育と、就職後の定着のため、施設とのマッチングに重点を置いた指導をしている。 具体的な指導内容は次項「学生支援・就職等進路」に記す。</p> <p>2. 国家試験対策は授業の完全理解と考え、理論と実践で理解するアクティブ・ラーニングに注力している。過去の国家試験出題分析と当該年度の予測に立った授業展開で、学生の意欲と集中力を高める。 後期からは朝のホームルーム前と放課後を活用し、過去問題・模擬試験・苦手分野対策の繰り返しを徹底的に実施している。介護福祉士の合格率は、平成 30 年度 100%、令和元年度 90%の高結果を得ている。</p> <p>3. 在校生の実習やボランティア活動での施設との連絡や訪問時に、勤務している卒業生の様子や評価、本校への要望を聞いている。 勤務年数の長い卒業生は、介護福祉士会や県で行われる実習指導者講習会、各研修講師の資格、認定介護福祉士等の取得など積極的にスキルアップ、自己研鑽に励んでいる。</p>	<p>2. 介護福祉士国家試験の合格に向けては、日々のカリキュラムの工夫により好成績を上げているが、今後も結果の推移を分析しつつ改善を加えていく。</p>

最終更新日付	令和 2 年 5 月 15 日	記載責任者	上田 勝己
--------	-----------------	-------	-------

基準 5 学生支援

5-16 就職等進路

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	3	2	1

5-17 中途退学への対応

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-17-1 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1

5-18 学生相談

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	3	2	1
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	在籍者なし			

5-19 学生生活

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	3	2	1
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	3	2	1
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4	3	2	1
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	3	2	1

5-20 保護者との連携

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	3	2	1

5-21 卒業生・社会人

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	4	3	2	1
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	3	2	1
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	3	2	1

評価と課題	今後の改善方策
<p>1. 就職支援では、毎年学生数の三百倍に上る求人票をキャリアセンターにて開示。指導と支援を計画的に実施し、履歴書の書き方、筆記試験対策、面接演習等、学生の状態に応じた指導を実践する。卒業生による就職先の施設紹介、外部実習・ボランティア先なども利用し、マッチングに留意している。</p> <p>2. 学生相談には正・副担任が当たる。生活態度の不良や成績不振、心理的な問題を抱える学生には、主任教員・学科長・理事長とも連携を図り、保護者の協力のもと助言・指導を行い学修の継続へと導く。</p> <p>学生の実家庭環境等が年々複雑化しており、保護者の理解、協力が得られない場合もある。その時々状況に応じた、慎重かつ柔軟な個別対応ができるよう、教職員の力量向上が求められる。</p> <p>3. 経済的な支援では、独自の奨学金や災害見舞金、国や県の奨学金制度等の情報を積極的に提供し、家庭での負担軽減に努めている。</p> <p>※右頁「今後の改善方策」に令和2年の事例を紹介。</p> <p>4. 健康管理では、看護師が常駐する保健室が日々の検温や消毒液の管理、登校の可否など学生の健康を管理する。毎年4月に全学年・教職員の健康診断を実施。特に外部実習に対しては感染症予防接種など万全を期している。</p> <p>5. 卒業後の支援体制としては、福祉に関する各種スキルアップ講習を開講している。キャリアセンターが卒業後の窓口となり、就職後の相談や就（転）職への継続的な支援とともにスキルアップ講習の受講を薦め、専門職としての資質向上に寄与している。</p>	<p>2. 学生固有の相談・課題のなかには、担任では難しい事例も増えており、キャリアカウンセラーをはじめ関係教職員が学生の現状を把握し、協力しながら様々なアプローチを行っていく必要がある。</p> <p>授業内容によっては外部講師の活用も視野に入れ、学生にとって有益な情報の提供に至るよう地域のマンパワー活用も工夫していく。</p> <p>ボランティア活動は本校の特色であり、活動を通して自己の向上を目指すだけでなく、社会の一員としての自己を自覚させ、広く地域社会とつながっていけるよう今後も支援していく。</p> <p>充実した学校生活を送るためには、支援体制の充実と共に、保護者の協力が必要不可欠である。次年度からは欠席の多い学生等には、事態がひっ迫した状況になる前に電話で保護者への連絡を行い、その後郵送をもって保護者と状況を共通理解することとする。</p> <p>3. コロナウイルス禍に対する支援事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①オンライン授業環境整備支援金 全学生一律5万円 ②自宅外通学者家賃補助 一律3万円 ③授業料減免 一世帯10万円 (新型コロナウイルス感染による収入減少に対する 公的支援対象者他条件あり) ④全学生にマスク支給 一律25枚 以上実績

最終更新日付	令和2年5月15日	記載責任者	白石 啓子
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育環境

6-22 施設・設備等

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	3	2	1

6-23 学外実習、インターンシップ等

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	3	2	1

6-24 防災・安全管理

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1

評価と課題	今後の改善方策
<p>1. 福祉保育学科の学生は、幼稚園教諭二種免許状の取得のため、図書館を開放し課題作成やレポートに取り組んでいる。学びを深めていくため、最新の参考文献の増加を行っていききたい。 レポート作成については、校内で管理されているパソコンは一人一台放課後も使用可能であり、プリンターなど自由に使用できる環境にある。</p> <p>また、福祉保育学科卒業後、系列の群馬医療福祉大学・社会福祉学部3年次へ編入学（入学金免除）により、社会福祉士・児童指導員など8つの資格取得が可能となり、職業選択の幅を拡大できる環境にある。</p> <p>2. 施設利用については全学生が利用しやすいように、各教員が細やかに確認・整備等を行っている。掃除備品なども随時補充を行っている。</p> <p>3. 学内外実習にあたり、保育・介護を分けずに情報提供など連携をとり、指導教員の協力体制の下、教職員全体の連携を図りながら情報を共有し、学生指導を行っている。群馬医療福祉大学附属認定子ども園鈴蘭幼稚園が敷地内にあり、流行病や災害などで外部実習が困難な社会状況下にあっても実施が可能な環境にある。 1年生を対象に、「東京ディズニーリゾートコミュニケーションスキル研修」をここ数年取り入れている。ホスピタリティーマインド・スキルの高さに定評ある当施設の指導担当者やキャストを講師としたコミュニケーション講習は、現地に行き学生自身が楽しみながら実施できることもあり、高評である。このような研修を今後も企画し、学生の学ぶ姿勢を高めていく。</p> <p>4. 年1回義務付けられている避難訓練を年2回実施し、教職員と学生に訓練と意識付けを行っている。避難訓練の担当箇所等も配置を毎回変更し、全職員が全体を把握できるよう備えている。 群馬医療福祉大学附属認定子ども園鈴蘭幼稚園が敷地内にあり、避難訓練を毎回同時に実施している。保育の道に就職を考えている学生にとっては、実際に自身も避難訓練を行いつつ、幼稚園の避難訓練の様子を直接見学できることにより視野が広がり、学生の学びの向上に期待できる。</p>	<p>1. 図書室において、幼児教育や介護に関する専門書籍をはじめ、絵本や新書など周辺領域に関する書籍教材も増やしていく。</p> <p>2. 施設の老朽化が進んでいるので、劣化が進んでいるところは補修を行い、全体の点検を怠らないようにする注意する。</p> <p>3. 令和2年度前期は、コロナウイルス蔓延により、学外実習の一部または全部が学内実習でも認められた。介護福祉専攻科の設備・教育環境はすべての実習を学内で修了することのできる環境にあった。 学外実習では事前、事後とも指導体制が一貫しているが、学生が掲示板から希望先を探して教務課に申し込むボランティア活動に関しては、個々の指導が薄くなりがちである。ボランティア活動も外部実習と同じという視点で、教育的な指導により学生の成長を促していく。</p> <p>※ 昨年は台風などの自然災害に対し、国や県よりボランティア学生派遣の要請があったが、学校全体としての取り組みが間に合わなかった。女子が多いこと、保育・介護職を目指す学校であることをふまえ、教育的な見地から学びを活かせる外部災害への協力も検討したい。</p>

最終更新日付	令和2年5月15日	記載責任者	白石啓子
--------	-----------	-------	------

基準 7 学生の募集と受入れ

7-25 学生募集活動

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	3	2	1
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	4	3	2	1

7-26 入学選考

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	3	2	1
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	3	2	1

7-27 学納金

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	3	2	1
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	4	3	2	1

評価と課題	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 生徒対象のガイダンスでは口頭での説明だけでなく、実際に体験できる用具や動画等を活用し、本校の様子が伝わるよう工夫している。 選考では学力偏差値よりも面接重視を明記し、適性を見ている。 入学辞退者には、入学金以外の納入金をすべて返還している。辞退申請は3月の最終の平日17時まで可能としている。 	<ol style="list-style-type: none"> 保育士、介護福祉士の待遇等の改善の現実や3資格を取得する本校システムの将来性・優位性を高校現場ほか社会へ知らせ、入学定員の適正化と学校運営の健全化をめざす。 今後は、社会人教育の強化と留学生など高校生以外からの志願者を掘り起こすことを模索してゆく。

基準 8 財 務

8-28 財務基盤

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	3	2	1
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	3	2	1

8-29 予算・収支計画

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	3	2	1
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	3	2	1

8-30 監査

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	3	2	1

8-31 財務情報の公開

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1

評価と課題	今後の改善方策
<p>1. 財務的に法人全体のバランスは取れているが、専門学校単独では年々厳しい状況となっている。学生納付金収入が減額の傾向であり、人件費率は年々増加している。経常収支差額比率は下がりつつあり、設備整備による基本金組み入れが多く、当期収支差額表示の配慮が必要とされる場所である。</p> <p>2. 抜本的な将来計画が必要とされる中で、系列大学では学部増設が具体化されてきたところである。当初より外部借入金に依存せずに運営できているので、今後も自己資金で施設設備整備の企画は継続していきたい。</p>	<p>1. 学生納付金収入減、人件費率の増加に伴う経常収支差額比率の減少には、新学部増設等改組によって対応してきたところである。さらに多角的な学校運営に十分に考慮し努力を続けていかなければならない。</p> <p>2. 学習環境整備の改善計画と多種にわたる災害に応ずる整備対策を早急に企画したい。</p>

最終更新日付	令和2年5月15日	記載責任者	伊藤 芳雄
--------	-----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	3	2	1

9-33 個人情報保護

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1、			
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	3	2	1

9-34 学校評価

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1、			
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	3	2	1
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4	3	2	1
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	3	2	1
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	4	3	2	1

9-35 教育情報の公開

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	3	2	1

評価と課題	今後の改善方策
<p>1. 関係法令や設置基準に基づいた自己点検・評価を行い、学校運営・各種規則・規定の整備を行っている。また、セクシャルハラスメント等の対策については法人として取り組んでおり、対応マニュアルを整備・運用し、SD 研修・FD 研修等で認識を共有している。</p> <p>2. 自己評価については、年間の評価と改善目標を学校 HP にて公表し、毎朝のミーティングと隔週開催の職員会議を中心に、年間を通じて改善努力をしている。評価の要素となる財務状況、建学の精神、卒業認定、学習成果の評価方法、シラバス等も HP に公表している。学校関係者評価については令和2年6月に初実施し、報告書を HP に公開する。</p>	<p>1. 個人情報の取り扱いについては HP に「個人情報保護規定」を掲載しているが、職員間の共通認識をいっそう深めてゆく。 教務システムの活用及び管理の一元化を徹底する。</p>

最終更新日付	令和2年5月15日	記載責任者	鈴木 国泰
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

10-36 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	4	3	2	1

10-37 ボランティア活動

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	3	2	1

評価と課題	今後の改善方策
<p>1. 本校舎とサテライト教室の2箇所において、県の委託による就職希望社会人のための通信教育（社会福祉士・介護福祉士実務者研修・精神保健福祉士・喀痰研修）を実施し、就職支援と人材発掘に寄与している。 日本赤十字社との協力で年2回の学校内での献血、群馬社会福祉協議会へのペットボトルキャップとプルリングの寄付などを実施している。</p> <p>2. 国策として保育分野では留学生を受け入れていないのが現状。介護分野では受け入れ可能であるが、本校の介護福祉専攻科は、保育士資格取得者が対象であるため、留学生の受け入れには慎重な検討が必要である。</p> <p>3. ボランティア活動は、併設大学はじめ学園全体の教育目標として単位を伴う必修科目としている。礼儀・マナーや社会を学び、自分の将来像を明確化するだけでなく、人として成長するために最適な教科であり、今後も全学生に活動を促していく。</p>	<p>2. 募集対象を留学生のほか日本に定住する外国籍者や技能実習生へ広げ、受け入れコースも専門課程と通信過程を想定して情報収集を継続してゆく。</p>

最終更新日付	令和2年5月15日	記載責任者	上田 勝己
--------	-----------	-------	-------

4 令和元年度総括と令和2年度の改善目標

令和元年度総括と令和2年度の改善目標

学園運営の根幹である「仁」の理念は教職員、学生に浸透し、学修成果は資格取得率の高さや完全就職に現れた。

一方、入学者の中には学修・生活両面において未成熟な者もあり、高校ならびに家庭との連携による入学前教育の必要性など、新たな検討課題も見える。これまで見てきた各基準での評価をもとに、「令和2年度の改善目標」を示し自己評価報告を終える。

・基準1 教育理念・目標

- ①教育理念等はあらゆる機会を捉えて発信されているが、学生や一般の人々に理解されるかアンケート等で確認を図ることも検討する。
- ②3資格取得を目指す本校教育システムの生涯にわたる優位性を、入学前の高校生・保護者・教諭・一般社会へと広く啓蒙してゆく。

・基準2 学校運営

オンライン授業のスキルについては、年間計画を作成し、定期的実施する。

・基準3 教育活動 ・基準4 学修成果

- ①成績評価・修了認定として、ポートフォリオやルーブリックの活用が考えられる。委員会を設置し検討する。
- ②介護福祉士国家試験の合格に向けては、日々のカリキュラムの工夫により好成績を上げているが、今後も結果の推移を分析しつつ改善を加えていく。

・基準5 学生支援

教職員の学生サポート力の向上を図るほか、外部人材を含めたチームサポート体制を組織するなどの連携を検討する。

・基準6 教育環境

- ①校舎の整備と専門に関する書籍などサブ教材の充実を図る。
- ②ボランティア活動での教育効果の向上と災害ボランティアへの協力体制を進める。

・基準7 学生の募集と受け入れ

- ①保育・福祉業界の重要性和近未来の可能性を高校現場ほか社会へ知らせ、入学定員の適正化と学校運営の健全化をめざす。
- ②社会人教育の強化とともに、留学生受け入れなど入学者増加への導線の拡充を模索していく。

・基準8 財務 ・基準9 法令等の遵守 ・基準10 社会貢献・地域貢献

個人情報保護法や各種法令遵守のための、教職員の共通認識を深めてゆく。教務システムの活用及び管理の一元化を徹底する。

最終更新日付

令和2年5月27日

記載責任者

宇佐美 正利

